

主なトピックス

中心市街地に多機能複合施設の整備を検討

老朽化が進む中央図書館の建て替えの議論に合わせて、図書館・子育て支援・生涯学習・市民活動などの機能を併せ持つ施設を中心市街地に検討するという話が出ております。候補地として、市は、石川グラウンド北側にあります日立グループ保有の旧サイエンスラボラトリを突如候補地として提示しております。当施設は、築約25年、三階建て床面積約3,700㎡の施設です。図書館や子育て、生涯学習などの「まちの顔」となる、まさに、まちの考え方を具現化する施設です。建物ありきの議論でよいのでしょうか。まず、中身の議論が先にあるべきです。未来の世代に誇れる中心施設が求められているのではないのでしょうか。

臨時特例給付金について

消費税引き上げの影響を踏まえ、昨年度に引き続き本年度も対象者へ支給されます。

対象者と支給額

①特例給付対象者を除いた児童手当受給者…児童1人につき3,000円

②市民税(均等割り)非課税者(住民税を支払っている方に扶養されている方は除く)1人につき6,000円

対象者へは、申請書類が送付されます。

プレミアム付き商品券

財源として国の地域消費喚起・生活支援に関わる交付金による充当が予定されているため事業費を<1億2,502万9千円計上。>今年度は、購入額に対して20%お得になる予定です。例えば1万円ですと、2,000円多くなります。



その他

ひたちなかまちづくり会社が発足

市が出資せず、資本金をすべて民間資本によって賄われるまちづくり会社は珍しい形で、民間ならではのスピード感で、中心市街地活性化へ取り組むことが期待されます。

ロックインジャパン、本年も4日間開催
8月1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)

湊線延伸の検討

引き続き、延伸についてルートや経費などを検討すると言及

プロフィール

ひたちなか市議会議員 鈴木 道生

住 所 ひたちなか市元町 11-4 レジデンス元町 302
Tel.Fax 029-272-9028
E-mail suzuki.michio.nextjapan@gmail.com
facebook もやっています。

1982年7月20日 ひたちなか市共栄町にて生まれる。勝田保育園、東石川小学校、大島中学校、勝田高校を経て日本大学法学部卒業。小学校時代のバブル崩壊という出来事が政治への興味を生み、中高と政治への志を強くする。大学生時代に認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会にて学生ボランティアスタッフとして活動。視察ツアーでミャンマーに行った際に、出会った若者たちの貧しくても未来への夢を語る姿に、世界観が大きく変わる。株式会社ペルーナ、楽天株式会社にて勤務。2011年11月よりひたちなか市議会議員。「新しいこと、面白いことに挑戦する」そんな人を増やしサポートする「まち」を目指し、活動中。

【家 族】妻・娘 写真(娘)2014年7月生まれ
【趣味】スポーツ・読書
【スポーツ】小学校時代には父の影響もあり、合気道を習う。中学校は野球部に所属、高校～大学以降野球・バドミントンを楽しむ。2012年勝田マラソン10キロ完走、13年勝田マラソン42.195キロ完走

【座右の銘】
「一視同仁」
「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」

【社会活動】勝田高校同窓会事務局、元町自治会、消防団第一分団、ひたちなか商工会議所青年部 ビジネスパワーアップ委員長、ひたちなかまちづくり株式会社 企画推進委員
【2014年度 主な活動】議会広報委員長として、議会広報の改善へ議論を進める。ひたちなか市長選挙 大谷明候補の事務局として行動。議会報告会 実行委員として取り組む。議会定例会では毎回一般質問(3月議会以外)に立ち、3月議会では会派を代表して代表質問に立つ。



ひたちなか市議会 会派「市民の風」 議会報告レポート

会派所属議員 (代表)住谷勝男 川崎三郎 山田雅則 鈴木道生 発行責任者:住谷勝男 編集責任者:鈴木道生

平成27年 第1号

発行責任者/代表 住谷勝男

編集責任者/鈴木道生

ひたちなか市元町11-4
レジデンス元町302

市民の風 ひたちなか市議会レポート

鈴木みちお

議会広報委員会委員長 文教福祉委員 予算委員

現状維持か新たな挑戦か

少子高齢化、人口減の問題が最近叫ばれ 東京の一極集中による地方収縮の議論も盛ん

こうした問題は30年以上前より出てきていたにも関わらず、「介護・保険などがこのままでは持たない」現実と直面して熱を帯びてきました。過去にも触れましたが、目先の現実とならないと議論が前に進まない現状はとも問題であると考えております。

●介護福祉そして地域のこれから

認知症の方は全国で約700万人になると言われております。今年10月からは、介護保険の要支援1・2事業の一部が地域移管となり、介護予防や見守りを、ご近所で介護事業者を含めて取り組めるように地域づくりをする必要もあります。予防重視の介護報酬のあり方も検討すべきです。子育て支援の拡充も人口減対策と絡み活発です。社会は、働き方を含め確実に変化する必要に迫られております。小1の壁問題から、水戸のような支援施設の必要性、ネットでの情報提供まで取り組むべき点は山積みです。

●ひたちなか市は「こんなもんじゃない」

本市は、国県によるひたちなか地区の大規模投資と、日立という大手企業の立地により「雇用」の優位性があり人口が横ばいを維持しております。しかし、決して雇用に関して国県や大手企業が担っているから市は関係ないということはありません。ひたちなか市は、まだまだ伸びしろがありますし、チャンスがあるのではないのでしょうか。例えば、観光はどうでしょう。勝田駅前には、観光案内所もお土産を買う場所也没有し、駅前ひろばも活用しきれておりません。ふるさと納税についても全く動きはありません。市として先頭に立って地域のPRをするべきではないのでしょうか。

●現状維持では衰退、まず挑戦

出生数も年々減少しております。2015年現在では0～19歳と75歳以上の人口数は、0～19歳の方が約5,000人多いですが、2025年には推計で75歳以上が約3,000人多くなり10年で約8千人逆転します。「今のままで何とかなるだろう」は、残念ながら通用しないようです。未来を見通す議論は、役所の方に任せるのではなく、本来は、負託を頂いた政治家が責任を負うべきではないのでしょうか。私も、時に路地裏一軒一軒から問題提起を頂きながら、時に将来を議論しながら、今後も絶え間なく議会などで質問提言を行っていく覚悟です。どうか皆さまのご意見・お知恵、そして力強いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

鈴木みちお 力を入れている取り組み

- 中心市街地での図書館・子育て支援施設・生涯学習センターの建替え、複合施設検討について
⇒特定の施設を買うことありきの議論に疑問を感じており、まず中身の議論をすべきと考え、取り組んでおります。
- 子育て支援・応援の仕組みづくり・出生数向上への取り組み
- 介護(予防)の日常生活地域化への取り組み
- 地域のブランド化(市自体、ほしいなどの農産物や食)
- 空き家空き店舗の有効活用

開発が進むひたちなか地区



旧サイエンスラボラトリ(石川グラウンド北)
※市が買収を検討

●ひたちなか市の人口予測

